

令和5年度(2023年度)東海市健康づくり推進会議 第2回会議次第

日時：令和5年(2023年)10月30日(月)
午後2時～

場所：しあわせ村保健福祉センター講義室(2階)

1 あいさつ

2 議題

令和5年度(2023年度)主な事業の実施状況について

3 その他

(1)第3次東海市健康増進計画策定状況について

(2)今後の会議予定

第3回：令和6年(2024年)2月15日(木) 午後2時から

4 閉会

令和5年度(2023年度) 主な事業の概要

施策名	4-1-① 自分の体をメンテナンスできる人を増やす																				
令和4年度の施策評価	<p>令和2年度、3年度ともに新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えの影響か特定健診の受診率が低下していたが、令和4年度は元の日常に戻りつつあったためか、受診率は向上し、新型コロナウイルス感染症の流行以前の受診率に近い値となった。また、新規事業として、特定健診受診率向上事業に取り組んだ。令和3年度以前にも、特定健診未受診者に対して、受診勧奨ハガキを作成し送付していたが、令和4年度は特定健診未受診者に対して、対象者を分析し、より個人の状況にあったハガキを未受診者全員に個別送付し受診行動を促した。</p> <p>●受診勧奨後の受診率の推移(参考)</p> <table border="1" data-bbox="485 869 1339 1115"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>受診勧奨対象者</th> <th>受診者(2月)</th> <th>受診率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>7441人</td> <td>521人</td> <td>7.0%</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>7612人</td> <td>718人</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>6880人</td> <td>774人</td> <td>11.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施期間を変更(9月～2月)して実施した</p>	年度	受診勧奨対象者	受診者(2月)	受診率	R1	7441人	521人	7.0%	R2	/			R3	7612人	718人	9.4%	R4	6880人	774人	11.2%
年度	受診勧奨対象者	受診者(2月)	受診率																		
R1	7441人	521人	7.0%																		
R2	/																				
R3	7612人	718人	9.4%																		
R4	6880人	774人	11.2%																		

事業名等	健康診断受診勧奨事業
今年度の取り組み(現状)	<p>市内医療機関、市内商業施設等でのポスター掲示や、チラシの設置を依頼している。また、対象者全員に個別で受診勧奨し、6月から10月にかけて実施し、2月に追加実施予定である。特定健診未受診者に対しては、1月に受診勧奨し、2月の追加実施での受診を促す予定である。また、16歳から39歳を対象としたフレッシュ健診を市内医療機関で実施している。</p> <p>広報、メディアスFM放送、お口と体の健康イベントにおいて禁煙、健診受診、健康増進の普及などについての周知啓発を実施している。</p>

<p>上半期の活動結果</p>	<p>特定健診受診者数 () 内は令和5年度 6月 929人 (706人) 7月 909人 (1,083人) 8月 767人 (748人)</p> <p>●特定健診受診率の推移(参考)</p> <table border="1" data-bbox="485 472 1102 719"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象者</th> <th>受診率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>15,284人</td> <td>49.7%</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>14,932人</td> <td>48.0%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>14,944人</td> <td>48.0%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>14,282人</td> <td>49.6%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	対象者	受診率	R1	15,284人	49.7%	R2	14,932人	48.0%	R3	14,944人	48.0%	R4	14,282人	49.6%
年度	対象者	受診率														
R1	15,284人	49.7%														
R2	14,932人	48.0%														
R3	14,944人	48.0%														
R4	14,282人	49.6%														
<p>課題と今後の取り組み</p>	<p>今後は更に、対象者分析を勧め、医療機関に通院しているが健診を受けない方を、医療機関と協力して受診勧奨したり、受診率の低い若い世代に注目し、SNS導入やメール勧奨等より効率的な受診勧奨をすることで、新たな層を取り込み、受診率の向上を図っていきたい。</p>															

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-1-② 壮年期をがんから守る
令和4年度の施策評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けて受診率が低かった昨年度までと比較して、今年度は、胃がん、乳がん、子宮頸がんのいずれも検診受診率は増となった。また、乳がん、子宮頸がんにおいて精密検査受診率も上昇した。</p> <p>生活習慣病の予防やがん等の早期発見・早期治療につなげるため、健診を受けることは必要であり、がん検診の受診率の増に向けた利便性の向上及び啓発活動等を行った。</p>

事業名等	受診勧奨事業																																				
今年度の取り組み（現状）	<p>医療機関や受診者に受診を勧奨し、6月から実施している。市民の利便性向上を目的に、集団検診において、従来は胃がん、子宮頸がんを別で実施していたものを、令和4年度から同時に実施している（託児あり）。市内各所にごがん検診受診勧奨ポスターを掲示するとともに、若年層の受診率向上を目的に新たに市公式 LINE 及び子育てアプリを使い、がん検診の定期的な受診勧奨を実施する。また、お口と体の健康イベントでがんクイズを実施した。</p>																																				
上半期の活動結果	<p>・受診者数（8月末現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>胃</th> <th>大腸</th> <th>子宮</th> <th>乳</th> <th>胃リスク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>628人</td> <td>3,169人</td> <td>1,005人</td> <td>1,201人</td> <td>143人</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>639人</td> <td>3,092人</td> <td>953人</td> <td>1,130人</td> <td>131人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・無料クーポン利用者（8月末現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>胃</th> <th>大腸</th> <th>子宮</th> <th>乳</th> <th>胃リスク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>130人</td> <td>297人</td> <td>275人</td> <td>305人</td> <td>143人</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>113人</td> <td>318人</td> <td>248人</td> <td>291人</td> <td>131人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	胃	大腸	子宮	乳	胃リスク	R5	628人	3,169人	1,005人	1,201人	143人	R4	639人	3,092人	953人	1,130人	131人	年度	胃	大腸	子宮	乳	胃リスク	R5	130人	297人	275人	305人	143人	R4	113人	318人	248人	291人	131人
年度	胃	大腸	子宮	乳	胃リスク																																
R5	628人	3,169人	1,005人	1,201人	143人																																
R4	639人	3,092人	953人	1,130人	131人																																
年度	胃	大腸	子宮	乳	胃リスク																																
R5	130人	297人	275人	305人	143人																																
R4	113人	318人	248人	291人	131人																																
課題と今後の取り組み	<p>社会保険加入者が増加していくなかで、職場や行政の検診受診率向上に向けた啓発活動の方法について検討する必要がある。</p> <p>個別医療機関での検診機会の拡大に向けた検討を実施するとともに、令和6年度からの胃内視鏡検診の導入に向けて、医療機関向けの説明会等を実施し、必要な準備を行う。</p>																																				

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-1-③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる
令和4年度の施策評価	<p>中学生の歯肉炎の罹患者率は4年ぶりに減少した。給食後の歯みがきは、小学校では2校、保育園は全て、幼稚園は5園中2園が年間実施し、年度途中から再開した小学校が増えた。規則正しい生活習慣が戻りつつあることが、歯みがき習慣にもみられる。</p> <p>若年層の歯周病検診の受診率が低いため、県が発行した啓発ポスター等を活用し、引き続き若年層の歯科健診事業を普及・啓発する。</p> <p>いつまでも自分の口で食べるためには、口腔機能の維持と口腔管理（かかりつけ歯科医による定期受診）が必要なため、介護予防事業等では定期受診の勧奨と健口体操に注力した。</p>
事業名等	フッ化物洗口事業
今年度の取り組み（現状）	<p>歯みがき巡回指導では、全保育園、幼稚園年長児に、正しい洗口の仕方及び洗口の練習を行い、依頼のあった小学校では3年生を対象にフッ化物の効果を題材に健康教育を実施。</p> <p>フッ化物洗口の実施状況調査を県作成の「フッ化物洗口確認シート」を用いて、市内全実施施設の見学および状況を確認するとともに、歯の大切さ及び正しい洗口方法を児に伝える。未実施施設1園にも訪問しフッ化物洗口の実施勧奨を継続する。</p>
上半期の活動結果	<p>保育園は全園実施、幼稚園は昨年度の2園から4園実施に増えた。小学校は昨年度4校実施から年度途中からの施設も含め、全校実施が実現した。小学校では、給食後の歯みがきを再開しているため、よりフッ化物洗口の効果と歯肉炎予防が期待できる。</p> <p>園児の見学では、歯みがき巡回指導時に習ったうがいができしており、高学年の見学では、児がフッ化物洗口の目的を理解した上で実施していた。頬の動き・力が弱い児は、洗口後の泡が少ないため、見学時に正しい洗口の仕方を啓発すると共に、健康教育でも正しいブクブクうがいの仕方、および口腔機能の啓発を行った。</p>
課題と今後の取り組み	<p>フッ化物洗口を継続させるため、健康教育等の機会にフッ化物の効果を引き続き伝えるとともに、園・学校歯科医師、施設側とも連携を取っていく。</p>

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-2-① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす
令和4年度の施策評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和2年度から継続した改善が見受けられる。20代等の若者世代はスポーツやトレーニングジム等を通じて体を動かす機会を作っていることが窺える。今後は高齢者や家族層に対し、子どもを巻き込んだ健康づくりの取り組みを推進し、ウォーキングなど身近な手段活用した健康づくりのためのきっかけを提供していく。</p>
事業名等	<p>みんなでウォーキング推進事業</p>
今年度の取り組み (現状)	<p>各種団体（7団体）と連携して市内公園・緑道等を活用した11回のウォーキングイベントを開催する。 子どもと一緒に家族で健康づくりを行うことができるイベントとするため、保育園や健康マイレージアプリ、企業との連携により健康応援メニューを提供する従業員に対して啓発を図る。</p>
上半期の活動結果	<p>4月29日（土）春の健康ウォーキング 参加者 90名 5月27日（土）健康づくりのためのウォーキング 参加者 40名 6月11日（日）心も身体もお仲間も満腹ウォーキング 雨天中止 6月18日（日）健康づくりウォーキング 参加者 92名 令和元年度から通算して5回参加する毎にへいしゅうくんのオリジナルピンバッチをプレゼント。（実績 36名） 子どもにとまていぬグッズをプレゼント。（実績 21名）</p>
課題と今後の取り組み	<p>10月以降に7つのウォーキングイベントの実施を予定している。 上半期の比較で、昨年度より子供の参加者が増えているため、子どものいる家族層にとっても運動ができる機会となり、運動習慣を身につけるきっかけとなるよう周知を図る。</p>

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-2-② 運動に取り組みやすい場を充実する																				
令和4年度の施策評価	<p>市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合は、昨年度横ばいであるが、計画当初から順調に推移している。運動ステーションの利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響から持ち直してきている。運動ステーション以外の民間運動施設も充実してきており、さらなる運動に取り組みやすい環境づくりを推進する。</p>																				
事業名等	高齢者の民間スポーツ施設利用補助																				
今年度の取り組み（現状）	<p>コパンスポーツクラブ東海において、65歳以上の市民の利用に対して補助することで、健康増進や体力づくりに取り組むことができるようきっかけづくり、及び継続的な取り組みへの支援を連携して推進する。</p>																				
上半期の活動結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者</td> <td>68人</td> <td>65人</td> <td>69人</td> <td>68人</td> <td>65人</td> <td>61人</td> </tr> </tbody> </table>								4月	5月	6月	7月	8月	9月	利用者	68人	65人	69人	68人	65人	61人
		4月	5月	6月	7月	8月	9月														
利用者	68人	65人	69人	68人	65人	61人															
<p>また、年度末年齢が65歳になる高齢者を対象として施設を1カ月無料で利用できる通知を9月下旬に発送した。</p>																					
課題と今後の取り組み	<p>運動習慣のない方に対してはしあわせ村トレーニング室を案内するなど個人に合った運動に取り組みやすい環境づくりを推進する。また、運動ステーションに認定されていない施設が市内に多くあるため、基準の見直しも含め認定に向けた検討を行っていく。</p> <p>令和6年（2024年）4月から東海市と知多市の両市民の健康づくり、健康寿命の延伸及び福祉の増進を目的とする健康増進施設（アクアマリンプラザ）が開館するため、その周知を行っていく。</p>																				

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-2-③ グループ（企業・団体）活動を推進する
令和4年度の施策評価	ウォーキングイベントや健康教室に参加したことがある人の割合は、前年度悪化し、特に主婦層で大きく減少がみられた。企業と連携した健康づくり支援事業を通じてアプリを活用した健康づくりや、若い時期からの生活習慣病の予防、高齢者の継続した日常生活における介護予防活動を推進していく。

事業名等	とうかい健康チャレンジ事業（マイレージ事業）
今年度の取り組み（現状）	県のあいち健康マイレージ事業に参加し、運動や食生活を始めとした健康的な取り組みを行うとポイントが付与されるアプリを活用した取組を実施する。
上半期の活動結果	企業と連携した健康づくり支援事業時の啓発だけでなく、高齢者に対する利用啓発を実施した結果、9月30日時点で登録者数1,451人、うち200ポイント以上取得したマイカ獲得者数588人であった。
課題と今後の取り組み	本アプリは壮年期層を中心とした企業等で働く従業員の健康づくりを支援するために県が導入したものであることから、引き続きこれまで健康づくりの取り組みを行っていなかった方への活用を促し、運動や健康づくりに対するきっかけとしてもらえるように利用の拡大を図る。

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-3-① 適量やバランスを意識する機会を増やす
令和4年度の施策評価	<p>食生活の改善に取り組んでいる人の割合は、昨年度から改善し順調に推移しているが、割合が低調な30歳代以下の世代に対する取り組みが課題である。改善策として、オンラインで実施する両親学級や、クックパッドでのレシピ掲載、トマト de 健康フェスティバルに参加した店舗等へ提供メニューの定番化等を働きかけ、野菜摂取に関する取り組みを推進していく。</p>
事業名等	<p>トマト健康プロジェクト事業</p>
今年度の取り組み（現状）	<p>若い世代への啓発を図るため、企業を対象とした健康づくり出前講座や、総合の時間にトマトの学習を行っている小学生を対象とした出前授業を行い、野菜を摂取するきっかけとしてもらう。また、健康応援ステーションを中心とした飲食店とスイーツ店が期間限定のオリジナル健康トマトメニューを開発し、スタンプラリーにより盛り上げる「トマト de 健康フェスティバル」を開催する。</p>
上半期の活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月から8月まで実施したトマト de 健康フェスティバルでは、871人がスタンプラリーを達成した。 ・ トマト新聞7月号でトマト給食コンテストの作品を募集し、72点の応募があった。 ・ 5月に1小学校でカゴメDVDを活用した授業、9月に1小学校でトマトに関する出前授業を実施した。 ・ 7月から8月末までマックスバリュ東海店で「5種の味わいトマト御膳」をトマト de 健康フェスティバル対象商品として期間限定で販売した。 ・ クックパッドに毎週レシピを掲載し、現在掲載数109品、総アクセス数215,329件（10月13日現在）である。
課題と今後の取り組み	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、今まで中止していたトマトジュースの出る蛇口、オムライス教室等を再開するなど、事業のPRを図る。トマト de 健康フェスティバル参加店舗へ食生活ステーションの認定を働きかけて拡大を図るとともに、スーパーマーケットとの連携、企業を対象とした健康づくり出前講座等を実施し、市民の食生活の改善を促していく。</p>

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-4-① 交流の場・活動の場を充実する
令和4年度の施策評価	<p>地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合は前年度比-3.7ポイント減少している。コロナ禍の影響も残っていることが考えられるが、引き続き人とのつながりを持てる地域づくりを継続する必要がある。</p> <p>困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合は前年度比、男性-0.6ポイント、女性-3.8ポイントと男女とも減少した。引き続き相談につながるような交流の場づくり等の工夫が必要である。</p>

事業名等	いきいき百歳体操の普及を通じた自主活動グループ支援
今年度の取り組み（現状）	既存団体へ専門職（栄養士、歯科衛生士、保健師等）を派遣することにより自主活動の活性化を図っている。身近な場所で活動に参加できるよう新たな活動の場を創出していく。また、世話人や参加者の高齢化により活動が難しくなっているグループもあるため、新規のサポーターを養成する。
上半期の活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・自主活動グループへの専門職派遣 体力測定 29 か所 歯科指導 16 か所 栄養指導 17 か所 音楽療法 6 回 IT サポーター 3 回 ・新規グループ立ち上げ 0 件 ・新規サポーター登録 3 名
課題と今後の取り組み	<p>今年度から通いの場への専門職派遣の中で、健康支援型配食サービス事業を導入し、低栄養予防と自主活動の活性化を図ることを合わせてスタートした。コロナ禍から少し開放され、一緒に活動する仲間と会食ができることを楽しみに積極的に参加されている。今後も、交流の場・活動の場を充実させ高齢者が継続して社会参加できるよう具体的な方策を進める。</p> <p>高齢者支援課はじめ庁内関係各課や社会福祉協議会等関係団体とも協議しつつ、身近な場所で活動に参加できるよう、公共施設に限らず、新規の通いの場を整備していくと同時に担い手の育成も進めていく。</p>

令和5年度 主な事業の概要

施策名	4-5-① 規則正しい生活習慣を身につける
令和4年度の施策評価	各種事業において情報提供や保健指導を実施してきており、指標は改善傾向にあり、一定の成果が出ている。しかし、年齢が上昇すると就寝時間が遅くなる傾向が認められており、今後も個別性を踏まえて保健指導を進めていく必要がある。

事業名等	乳幼児健診等を通じた保健指導														
今年度の取り組み（現状）	乳幼児健診や育児相談等の機会に家庭毎の生活習慣を把握し、必要な情報提供を行う。また、妊娠届出時や両親学級の機会を通じて、妊娠期から乳幼児期において規則正しい生活習慣について啓発を行う。														
上半期の活動結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">主な事業</th> <th style="width: 30%;">受診者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4か月児健診（9月まで）</td> <td>433人</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月児健診（9月まで）</td> <td>445人</td> </tr> <tr> <td>2歳児すくすく教室（9月まで）</td> <td>443人</td> </tr> <tr> <td>3歳歯科健診（9月まで）</td> <td>430人</td> </tr> <tr> <td>3歳医科健診（9月5日～迄）</td> <td>396人</td> </tr> <tr> <td>育児妊婦相談（9月まで）</td> <td>82人</td> </tr> </tbody> </table>	主な事業	受診者数	4か月児健診（9月まで）	433人	1歳6か月児健診（9月まで）	445人	2歳児すくすく教室（9月まで）	443人	3歳歯科健診（9月まで）	430人	3歳医科健診（9月5日～迄）	396人	育児妊婦相談（9月まで）	82人
主な事業	受診者数														
4か月児健診（9月まで）	433人														
1歳6か月児健診（9月まで）	445人														
2歳児すくすく教室（9月まで）	443人														
3歳歯科健診（9月まで）	430人														
3歳医科健診（9月5日～迄）	396人														
育児妊婦相談（9月まで）	82人														
課題と今後の取り組み	個々の状況に応じた相談において、具体的な情報提供や体験の機会、保護者同士の交流による学びの場の提供等を進め、行動に移しやすい保健指導に取り組む。														

第2次

東海市健康増進計画
いきいき元気推進プラン

令和4年度(2022年度)
評価シート



令和5年(2023年)7月
東海市 健康推進課

令和4年度(2022年度)施策評価シート

1 評価シートの位置付け

第2次東海市健康増進計画(平成26年度～令和5年度)の施策に基づき実施した事業や次年度以降の方向性等について、東海市健康づくり推進会議において確認を行い、当該年度の施策を評価したもの。

2 健康増進計画の目指す将来像

テーマ 「めざせ 健康寿命日本一」

キャッチフレーズ ～いきいき元気なひと・つながり・まちづくり～

目指す将来像

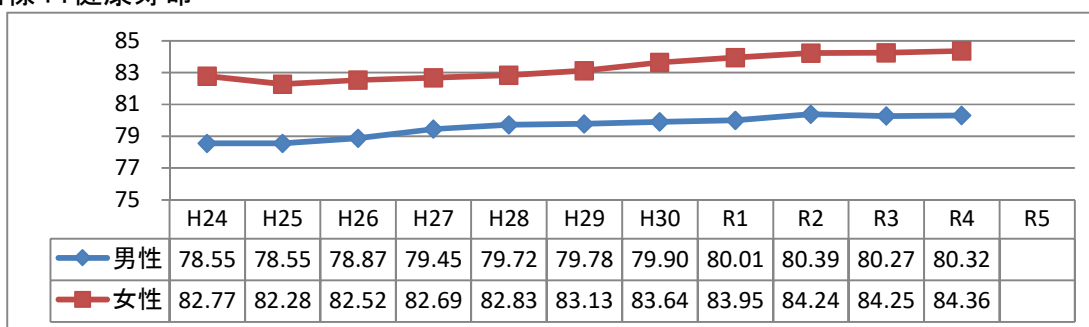
①ひと：毎日を楽しめる心と身体
自分の身体の健康状態に関心があり、健康的な生活を過ごしながら、いつまでもいきいきとした人生を送っている。

②つながり：笑顔でつながるふれあい
暮らしている地域でのつながりや、職場のつながりのなかで、楽しみながら健康づくりに取り組んでいる。

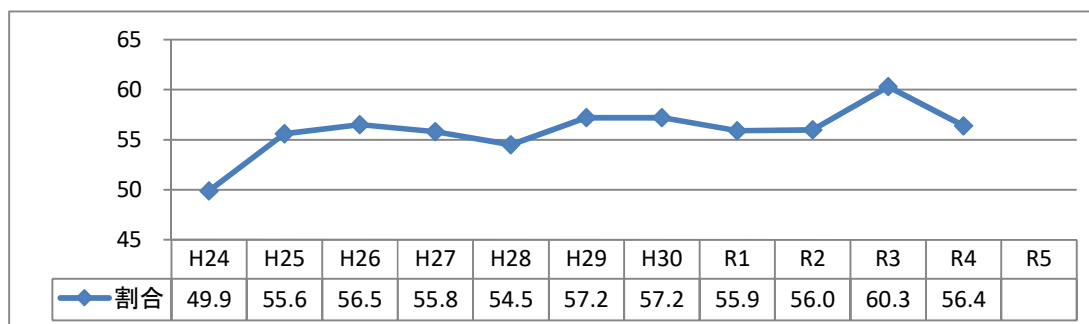
③まち：健康づくりに取り組みやすい社会環境
すべての市民が、自分に合った生活習慣のなかで、自然と健康づくりに取り組みやすい環境が整っている。

3 指標の推移

指標1:健康寿命



指標2:健康づくりの取り組みをしている人の割合



いきいき元気推進プラン 指標の現状値一覧

●総合計画指標

指 標		H24現状値	H25現状値	H26現状値	H27現状値	算出方法
1:健康寿命●	男性	78.55	78.55	78.89	79.45	厚生労働省研究班の指針に基づき、人口、死亡数、不健康割合の分母、不健康割合の分子を使用して算出。現状値は、人口(平成21年度から23年度までの合計)、死亡数(平成21年度から23年度までの合計)、不健康割合の分母(平成22年度の人口)、不健康割合の分子(平成22年度の要介護2～5の認定者数)を使用。
	女性	82.77	82.28	82.53	82.69	
2:健康づくりの取り組みをしている人の割合●		49.9	55.6	56.5	55.8	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100【】

項目	施策	指 標	H24現状値	H25現状値	H26現状値	H27現状値	算出方法	
4-1 健康の 大切	① 自分の体をメンテナンスできる人を増やす	3:年に1回は健康診断を受けている人の割合●	72.8	71.4	75.2	76.0	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100	
		4:生活習慣改善に取り組んでいる人の割合	30.0	26.2	25.7	25.9	東海市特定健康診査問診で「生活習慣の改善取り組み済み」の人の数/特定健康診査受診者数×100	
	② 壮年期をがんから守る	5:がん検診受診率	胃がん	7.8	9.6	9.1	10.5	東海市の各種がん検診受診率
			乳がん	11.4	18.6	18.6	22.3	
			子宮頸がん	16.1	19.4	20.3	21.8	
	③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる	6:がん精密検査受診率	胃がん	81.7	73.1	86.4	75.7	東海市のがん検診受診後の精密検査対象者のうち、各種精密検査受診者数/各種精密検査対象者数×100
			乳がん	90.3	89.5	88.0	85.4	
			子宮頸がん	67.9	43.8	60.7	57.4	
	7:中学生の歯肉炎の罹患率	6.1	4.0	5.2	4.3	学校保健統計(東海市学校保健部会発行)から「歯肉の状態」データ数		
		8:8020達成者割合	11.6	9.9	13.2	12.6	当該年度80歳到達者のうち、8020表彰の受賞者数/当該年度80歳到達者数×100。愛知県は「あいち新計画」より。	
4-2 運動・ 身体活 動	① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす	9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合●	男性	37.2	35.3	37.9	37.0	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答をした人のうち、取り組みとして「ウォーキングなどの運動」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
			女性	27.7	28.8	26.9	26.9	
		10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合	40～64歳	28.4	30.5	29.3	29.2	東海市特定健康診査の問診で、1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施していると回答した人の数/東海市特定健康診査受診者数
			65歳以上	49.3	51.4	50.3	48.5	
	② 運動に取り組みやすい場を充実する	11:市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合●	男性	56.1	59.9	62.2	59.1	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
			女性	62.5	66.7	63.9	67.2	
	③ グループ(企業・団体)活動を推進する	12:運動ステーションの数と利用者数●	箇所数	4	5	5	5	運動ステーションの設置数
			利用者数	-	108,822	130,689	146,091	運動ステーションの延利用者数
		13:市と連携して健康づくりに取り組む市民団体数・企業数	市民団体数	-	-	-	-	※健康づくり応援団制度をつくった後、健康づくりへの取り組みをしている登録市民団体数を把握するもの。
			企業数	-	-	-	-	※健康づくり応援団制度をつくった後、健康づくりへの取り組みをしている登録企業数を把握するもの。
14:1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことのある人の割合●	12.4	12.7	14.5	14.1	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100			
4-3 食生活	① 適量やバランスを意識する機会を増やす	15:健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合●	26.3	29.6	29.5	29.9	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答をした人のうち、取り組みとして「量やバランスを意識した食事」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		16:食生活ステーションの数と提供メニュー数●	箇所数	23	31	35	36	食生活ステーションの設置数
			メニュー数	35	44	52	48	いきいき元気メニューとして認定し、市内の食生活ステーションで提供しているメニュー数
4-4 ふれあい	① 交流の場・活動の場を充実する	17:地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合●	48.0	50.0	51.4	48.4	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		18:困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合	男性	75.1	75.6	75.9	77.0	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
女性	90.7		88.5	87.9	90.1			
4-5 次世代の健康	① 規則正しい生活習慣を身につける	19:午後9時前に就寝する幼児の割合	1歳6か月	28.4	30.6	33.3	31.8	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の問診より、各健康診査での午後9時前に就寝する幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	25.9	23.2	26.6	28.1	
		20:朝食を食べている幼児の割合	1歳6か月	95.3	96.1	96.7	95.5	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の問診より、各健康診査での朝食を食べている幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	94.8	94.2	95.5	95.0	

いきいき元気推進プラン 指標の現状値一覧

●総合計画指標

指標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	めざす方向	算出方法	
1:健康寿命●	男性	78.55	78.55	78.89	79.45	79.72	79.78	79.90	80.01	80.39	80.27	80.32	↑	厚生労働省研究班の指針に基づき、人口、死亡数、不健康割合の分母、不健康割合の分子を使用して算出。現状値は、人口(平成21年度から23年度までの合計)、死亡数(平成21年度から23年度までの合計)、不健康割合の分母(平成22年度の人口)、不健康割合の分子(平成22年度の要介護2~5の認定者数)を使用。
	女性	82.77	82.28	82.53	82.69	82.83	83.13	83.64	83.95	84.24	84.25	84.36		
2:健康づくりの取り組みをしている人の割合●		49.9	55.6	56.5	55.8	54.5	57.2	57.2	55.9	56.0	60.3	56.4	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100【】

項目	施策	指標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	めざす方向	算出方法	
4-1 健康の大切	① ② 自分の体をメンテナンスできる人を増やす 壮年期をがんから守る	3:年に1回は健康診断を受けている人の割合●	72.8	71.4	75.2	76.0	74.6	77.1	75.1	75.5	76.1	78.4	78.4	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100	
		4:生活習慣改善に取り組んでいる人の割合	30.0	26.2	25.7	25.9	26.5	26.8	29.8	29.7	28.1	30.0	29.5	↑	東海市特定健康診断問診で「生活習慣の改善取り組み済み」の人の数/特定健康診断受診者数×100	
		5:がん検診受診率	胃がん	7.8	9.6	9.1	10.5	10.2	10.2	8.4	7.4	6.1	6.5	7.2	↑	東海市の各種がん検診受診率
			乳がん	11.4	18.6	18.6	22.3	24.4	24.9	21.9	22.4	17.3	20.9	22.1	↑	
	子宮頸がん		16.1	19.4	20.3	21.8	24.2	23.1	24.7	20.6	16.8	19.0	20.2	↑		
	6:がん精密検査受診率	胃がん	81.7	73.1	86.4	75.7	77.2	70.4	74.4	71.2	71.9	81.7	76.9	↑	東海市のがん検診受診後の精密検査対象者のうち、各種精密検査受診者数/各種精密検査対象者数×100	
		乳がん	90.3	89.5	88.0	85.4	86.6	78.9	84.3	87.1	81.2	79.6	88.4	↑		
		子宮頸がん	67.9	43.8	60.7	57.4	84.3	49.3	42.6	50.6	75.9	85.8	90.0	↑		
	③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる	7:中学生の歯肉炎の罹患率	6.1	4.0	5.2	4.3	3.3	3.6	2.4	2.5	4.4	5.4	3.5	↓	学校保健統計(東海市学校保健部会発行)から「歯肉の状態」データ数	
		8:8020達成者割合	11.6	9.9	13.2	12.6	14.8	12.8	16.5	17.7	13.1	14.7	15.4	↑	当該年度80歳到達者のうち、8020表彰の受賞者数/当該年度80歳到達者数×100。愛知県は「あいち新計画」より。	
4-2 運動・身体活動	① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす	9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合●	男性	37.2	35.3	37.9	37.0	38.1	36.5	36.1	40.9	37.6	41.9	38.8	↑	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答をした人のうち、取り組みとして「ウォーキングなどの運動」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
		女性	27.7	28.8	26.9	26.9	23.5	27.6	28.9	29.3	30.9	30.7	30.9	↑		
		10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合	40~64歳	28.4	30.5	29.3	29.2	28.7	27.8	27.2	29.1	24.3	28.0	29.2	↑	
	65歳以上	49.3	51.4	50.3	48.5	51.6	47.4	46.4	47.1	43.3	45.3	44.6	↑			
	② 運動に取り組みやすい場を充実する	11:市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合●	男性	56.1	59.9	62.2	59.1	58.4	63.3	62.8	61.3	63.7	63.6	64.0	↑	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
		女性	62.5	66.7	63.9	67.2	62.5	66.7	68.9	68.7	70.0	67.3	65.2	↑		
	③ グループ(企業・団体)活動を推進する	12:運動ステーションの数と利用者数●	箇所数	4	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	↑	運動ステーションの設置数
			利用者数	-	108,822	130,689	146,864	148,444	146,869	140,784	133,112	71,616	89,053	117,800	↑	運動ステーションの延利用者数
		13:市と連携して健康づくりに取り組む市民団体数・企業数	市民団体数	-	-	-	-	-	-	-	8	4	4	7	↑	市と連携して市民等を対象としたウォーキングイベントを実施した市民団体数
			企業数	-	-	-	-	-	-	-	8	6	6	7	↑	市と連携して従業員の健康づくりに取り組んだ(いきいき元気キャンペーンに参加した)企業数
14:1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことのある人の割合●	12.4	12.7	14.5	14.1	14.3	14.9	13.1	15.4	9.5	11.0	10.1	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100			
4-3 食生活	① 適量やバランスを意識する機会を増やす	15:健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合●	26.3	29.6	29.5	29.9	29.8	30.1	31.3	27.9	30.9	31.5	28.4	↑	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答をした人のうち、取り組みとして「量やバランスを意識した食事」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		16:食生活ステーションの数と提供メニュー数●	箇所数	23	31	35	36	33	33	34	32	34	31	30	↑	食生活ステーションの設置数
			メニュー数	35	44	52	48	41	37	49	44	54	51	53	↑	いきいき元気メニューとして認定し、市内の食生活ステーションで提供しているメニュー数
4-4 ふれあい	① 交流の場・活動の場を充実する	17:地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合●	48.0	50.0	51.4	48.4	49.0	50.0	51.1	47.9	45.6	46.1	42.4	↑	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		18:困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合	男性	75.1	75.6	75.9	77.0	77.7	78.1	74.5	80.6	80.4	77.4	76.8	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
女性	90.7	88.5	87.9	90.1	89.7	89.4	85.7	89.7	93.1	91.3	87.5	↑				
4-5 次世代の健康	① 規則正しい生活習慣を身につける	19:午後9時前に就寝する幼児の割合	1歳6か月	28.4	30.6	33.3	31.8	29.6	31.5	27.7	32.9	32.9	42.0	42.6	↑	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の間診より、各健康診査での午後9時前に就寝する幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	25.9	23.2	26.6	28.1	24.7	26.6	24.2	21.9	25.3	22.6	22.8	↑	
		20:朝食を食べている幼児の割合	1歳6か月	95.3	96.1	96.7	95.5	95.8	97.0	95.9	96.6	96.2	96.6	96.8	↑	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の間診より、各健康診査での朝食を食べている幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	94.8	94.2	95.5	95.0	91.2	93.6	94.6	94.2	94.1	95.0	95.7	↑	

4-1 健康の大切さ

①自分の体をメンテナンスできる人を増やす

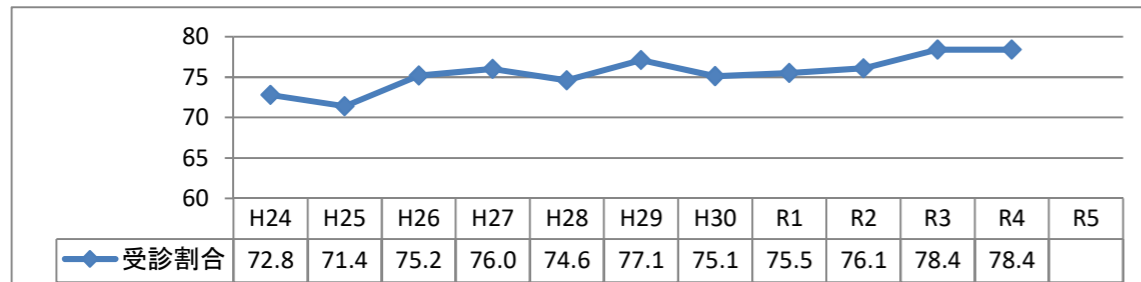
① 施策のありたい姿

健康診断をきっかけに自分の生活習慣を振り返り、毎年自分の健診結果を楽しみにしている人が増える。
喫煙習慣がある人が減り、タバコの煙が少ないまちになっている。



② 指標の推移

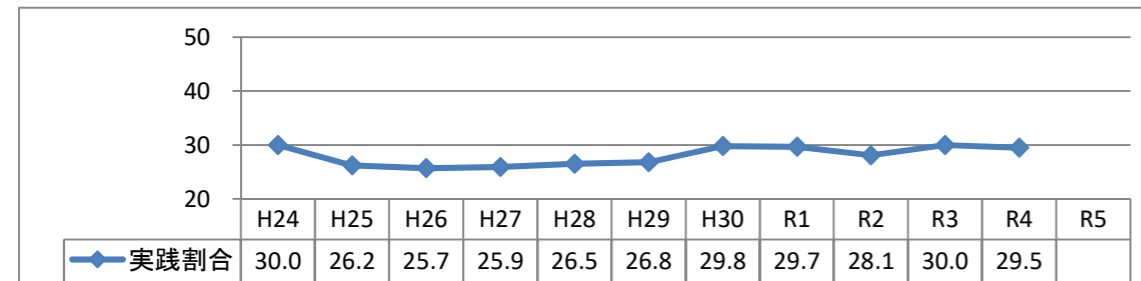
指標3: 年に1回は健康診断を受けている人の割合



○

前年度と同ポイントであり、伸び率は横ばいだが、基準値と比較し増加傾向。男性85.1%(前年度82.6%)で2.5ポイント増加したが、女性は73.6%(前年度75.2%)で1.6ポイント減少した。職業別にみると、自営業、学生及び主婦(家事専業)が低い割合となっている。

指標4: 生活習慣改善に取り組んでいる人の割合



△

前年度から0.5ポイント減少した。生活習慣改善の取り組みを継続している人は約3割であるが、近いうちに改善したい及び改善するつもりと答えている人は40.1%おり、生活習慣改善の必要性を感じている人は多い。

④ 推進会議のコメント

・糖尿病患者に対し、市と医療機関が連携し効果的な保健指導が行えるよう糖尿病悪化予防事業を実施しているが、参加者が減少しているため、周知の工夫が必要である。
・健診後、医療機関での指導に加え、栄養、運動面について市の専門職の指導を受けることができるのは良い取り組みであるが、医療機関からも事業に繋げてもらうと、受診者の予防・改善の期待が高まるのではないかと。

⑤ 施策の評価

令和2年度、3年度ともに新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えの影響が特定健診の受診率が低下していたが、令和4年度は元の日常に戻りつつあったためか、受診率は向上し、新型コロナウイルス感染症の流行以前の受診率に近い値となった。また、新規事業として、特定健診受診率向上事業に取り組んだ。令和3年度以前にも、特定健診未受診者に対して、受診勧奨ハガキを作成し送付していたが、令和4年度は特定健診未受診者に対して、対象者を分析し、より個人の状況にあったハガキを未受診者全員に個別送付し受診行動を促した。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 特定健康診査・特定保健指導の充実
主な事業	対象者に合わせた未受診者対策を実施し、健康診断結果による個別指導を充実させます。 未受診者の特性を人工知能に用いて階層化して受診行動に結びつきやすい内容の受診勧奨通知の送付(業者委託)、周知・啓発(公共施設等へのポスター掲示、広報及びホームページ等)、特定保健指導を市民体育館でも実施
課題・次年度の方向性	未受診者の特性を階層化した上での受診勧奨については継続し、受診率の向上を目指す。また、若い世代から健康診断を受診する習慣を身に付けてもらうため、16歳から39歳までに実施しているフレッシュ健診の周知・啓発に努める。

項目・プランの方向性	イ) 医療機関との連携
主な事業	医療機関と連携し、治療が必要な人への支援や治療中の人の保健指導を行います。 医療が必要な方への受診勧奨、糖尿病悪化予防事業
課題・次年度の方向性	糖尿病悪化予防事業は医療と並行して実施することが効果的であり、事業への参加者が減ってきていることから、医療機関と連携して新規参加者を募り、糖尿病の悪化予防に努める。また、各種健康診査の結果で血圧や血糖に関する値が受診勧奨判定値の者への受診勧奨は継続。

項目・プランの方向性	ウ) 受動喫煙防止の推進
主な事業	全ての人を受動喫煙から守るため、公共施設や職場の禁煙区域を増やします。 広報、メディアスFM放送で市民へ喫煙や受動喫煙の健康被害について啓発。世界禁煙デーに合わせた期間でしあわせ村、市役所庁舎でポスターの掲示により禁煙の啓発を実施。健康イベントでがん予防のための禁煙を掲示PRした。
課題・次年度の方向性	健康イベントで受動喫煙防止の必要性を啓発

項目・プランの方向性	エ) 青年期の喫煙対策の充実
主な事業	教育機関や企業と連携し、青年期に喫煙習慣を形成しないための知識の普及・啓発を行います。 保健師による健康教育の実施の機会はなかったが、広報・ホームページ等で喫煙対策に関する啓発を行った。
課題・次年度の方向性	中学生への健康教育、イベント等で喫煙における健康被害等の啓発

4-1 健康の大切さ

② 壮年期をがんから守る

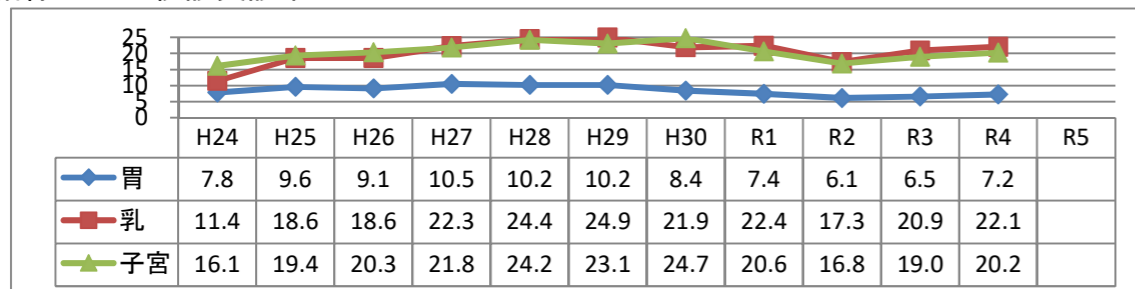


① 施策のありたい姿

がんについて正しい知識を持ち、がん検診を受診している人が増えている。

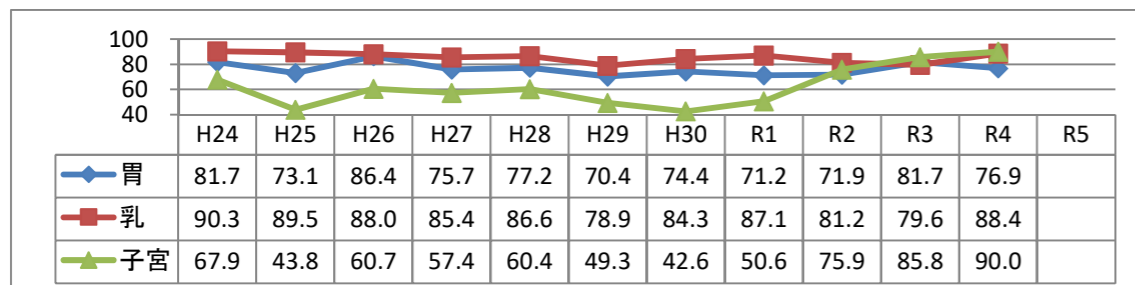
② 指標の推移

指標5: がん検診受診率



○ 昨年度と比較して胃がん検診受診率は0.7ポイントの増、乳がん検診受診率、子宮頸がん検診受診率はともに1.2ポイントの増となり、新型コロナウイルス感染症発生前の受診率まで戻りつつある。胃がんリスク検診の受診率1.9%も含めた胃がん検診全体の受診率は、9.1%となり、昨年度8.2%から0.9ポイント増となった。

指標6: がん精密検査受診率



○ がん精密検査受診率は、胃がん精密検査受診率以外は増加した。29年度(2017年)以降電話勧奨を実施しているが、昨年度は胃がんを除き、乳がん、子宮がん精密検査受診率は大きく増加している。

④ 推進会議のコメント

・胃がん検診では、内視鏡検診の実施に向けて調整準備をしているが、バリウム検診、リスク検診、内視鏡検診と3つになると指標が分かりにくいので、分けて評価が必要ではないか。
 ・がん検診の受診率の見方において、社保の人が他で検診を受けているため、分かりにくい。定年退職後の人を対象にすると分かりやすいか。

⑤ 施策の評価

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて受診率が低かった昨年度までと比較して、今年度は、胃がん、乳がん、子宮頸がんのいずれも検診受診率は増となった。また、乳がん、子宮頸がんにおいて精密検査受診率も上昇した。
 生活習慣病の予防やがん等の早期発見・早期治療につなげるため、健診を受けることは必要であり、がん検診の受診率の増に向けた利便性の向上及び啓発活動等を行った。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) がんについての情報提供 若い人や働く世代のがん予防への関心を高めるため、母子保健等の事業や企業、各種団体と連携して、がんに対する正しい知識や検診の必要性などの情報を提供します。
主な事業	しあわせ村で乳がん予防の啓発のための掲示を実施。全国健康保険協会愛知支部(協会けんぽ)と連携し、特定健診未受診者勧奨通知に市がん検診の受診勧奨案内の同封を行った。また、第一生命と連携して、本市がん検診の周知及びアンケート調査を実施した。
課題・次年度の方向性	働く世代の受診率向上に向け、市内各所にごがん検診受診勧奨ポスターの掲示を行う。また、若年層の受診率向上を目的に新たに市公式LINEを使い、がん検診の定期的な受診勧奨を実施する。また、お口と体の健康イベントでがんクイズを実施する。

項目・プランの方向性	イ) 受診しやすいがん検診の整備 子育て中の人や働く人など、多様なライフスタイルの人が受診しやすいがん検診の体制を整備します。
主な事業	個別医療機関での検診受診の啓発の継続、土日の集団検診の実施や子宮頸がん集団検診における保育士による託児の実施
課題・次年度の方向性	集団検診において、胃がん、子宮頸がんの同時受診を引き続き実施することで利便性を向上するとともに、新たにWEB申込を導入し、申込のハードルを下げた。また、個別医療機関での検診機会の拡大に向けた検討を実施するとともに、医療機関向けの説明会等を実施し、胃内視鏡検診の実施に向けた準備を行う。

項目・プランの方向性	ウ) がん検診フォローアップの充実 検診結果をわかりやすくフィードバックし、精密検査が必要な人への相談や受診勧奨を充実させます。
主な事業	精密検査の受診再勧奨通知を、受診時期を区切り、年度末と年度明けに2回再勧奨通知を送付した。精密検査結果報告のない方に電話にて受診勧奨。精密検査未受診者へ通知及び電話で受診勧奨を行う。一次検診実施医療機関へ二次検診(精密検査)受診結果の情報提供を実施。
課題・次年度の方向性	精密検査対象者へ検査可能な医療機関の一覧を作成し送付することで受診へつなげる。一次検診実施医療機関へ二次検診(精密検査)受診結果の情報提供を行い、一次検診の精度向上を図る。子宮頸がん検診は、壮年期への電話勧奨を継続して行う。



4-1 健康の大切さ

③おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる

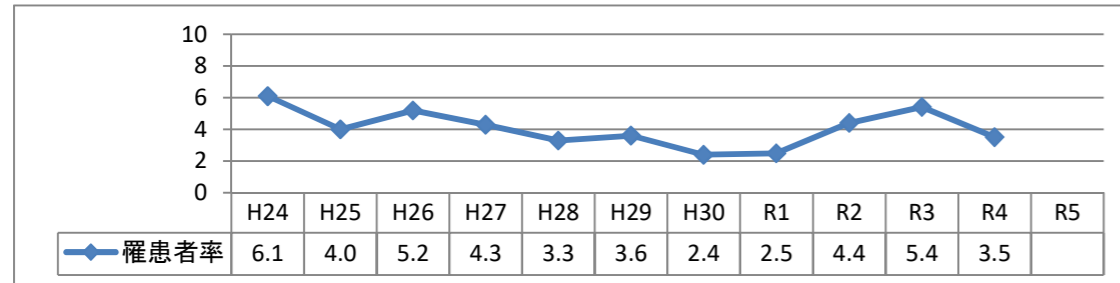


① 施策のありたい姿

歯を大切にする生活習慣が身につき、いつまでもかめる歯とおもいきり笑えるお口を持つ人が増えている。

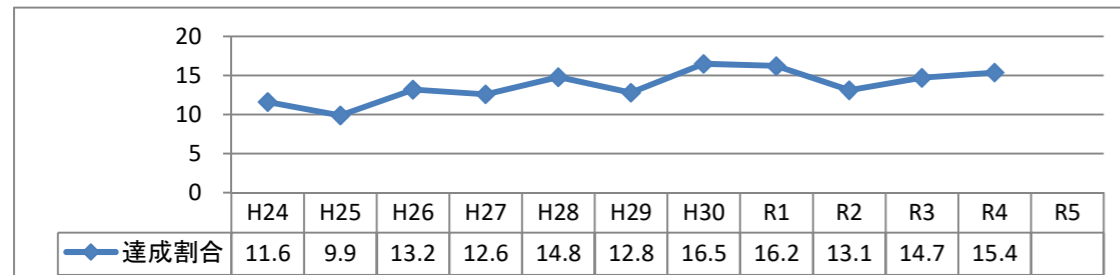
② 指標の推移

指標7: 中学生の歯肉炎の罹患率



コロナの影響で上昇傾向だったが、令和4年度は罹患率は減少した。規則正しい生活習慣が整いつつあることが窺える。間食等の食生活や歯みがき等、生活習慣の乱れは歯肉炎として口腔内に現れるとして、規則正しい生活を送ることの大切さも健康教育内容に盛り込む。

指標8: 8020達成者割合



横ばい状況だが基準値と比較するとやや増加している。国の達成度50%には及ばない。80歳到達者に8020応募案内通知を発送しているが、コロナ感染が心配で受診控えした方に翌年度以降の応募も可能であるPRが必要と考える。

④ 推進会議のコメント

・歯周病検診は若い世代の受診率が低く、大人になって急に歯周病と言われて取り組んでも遅い場合があることから小学生、中学生から歯周病についての健康教育を行う必要がある。
 ・在宅要介護者の歯科訪問は、歯科医院の診療の休み時間に行くため、積極的に実施できる歯科医院は少ないが、口が良くなれば体も良くなると言われているため、歯科医師も力を入れていきたい。

⑤ 施策の評価

中学生の歯肉炎の罹患率は4年ぶりに減少した。給食後の歯みがきは、小学校では2校が保育園は全て、幼稚園は5園中2園が年間実施し、年度途中から再開した小学が増えた。規則正しい生活習慣が戻つつあり、歯みがきの習慣もみられる。若年層の歯周病検診の受診率が低いため、県が発行した啓発ポスター等を活用し、引き続き若年層の歯科健診事業を普及・啓発する。いつまでも自分の口で食べるためには、口腔管理(かかりつけ歯科医による定期受診)と口腔機能の維持・管理が必要のため定期受診の勧奨と、介護予防事業では健口体操に注力した。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) むし歯予防対策
主な事業	幼児のフッ化物塗布及び保育園・幼稚園、小学生のフッ化物洗口の取り組みと、食後の歯みがきの習慣化に取り組みます。
課題・次年度の方向性	フッ化物洗口実施調査にて保育園は全園、幼稚園は2園、小学校は4校で通年実施していた。未実施の小学校等にも調査に出向き、意向を聞きながらいつでも開始できるよう準備を重ねた。年度末には新年度から実施する連絡がいくつかあり、未実施の小学校等には、問題を解決できるように引き続き支援していく。

項目・プランの方向性	イ) 歯周病対策
主な事業	学校や企業での健康教育に取り組み、かかりつけ歯科医を持つ人を増やします。また、受診率向上を目指し、受けやすい歯周疾患検診に取り組みます。
課題・次年度の方向性	フレッシュ歯周病検診は、3年度の受診率9.9%から4年度は7.4%に下がった。県が作成した若い世代向けの歯科検診受診啓発ちらしを成人式で配布した。また、中学生の歯肉炎罹患率が多いため、小学校高学年・中学校から健康教育の依頼があった場合は、歯周病予防の内容を盛り込んでいる。

項目・プランの方向性	ウ) 健口体操の普及・啓発
主な事業	筋肉の衰えや唾液の減少から口腔機能が低下しないよう、健口体操を市内全地域で普及させます。
課題・次年度の方向性	介護予防教室、訪問型介護予防教室、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 地域での活動が、感染予防策を講じながら予定通り行われた。マスク着用の方もいるため、分かりやすく、継続してもらえる健口体操を行う。訪問型介護予防事業では、かかりつけ歯科はあるが、口の機能の困りごとが多い方が多く、利用者が増えている。

項目・プランの方向性	エ) 歯科保健に係る多職種連携
主な事業	在宅要介護者や障害者などの通院等が困難な人の歯やお口の健康を支援するため、施設職員や歯科医師などの多職種が連携できる仕組みをつくります。
課題・次年度の方向性	通所施設障害者歯科健診は、施設1件の辞退以外は順調だが、治療勧告までできていない。自立型支援会議では、ケース報告に歯科の受診状況が把握されていない場合が多い。高齢者支援課の口腔チェック10点リストから依頼を受け、歯科衛生士が訪問し在宅支援事業所、歯科医院との連携を進めているが、件数が少ない。

4-2
運動・身体活動

①体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす

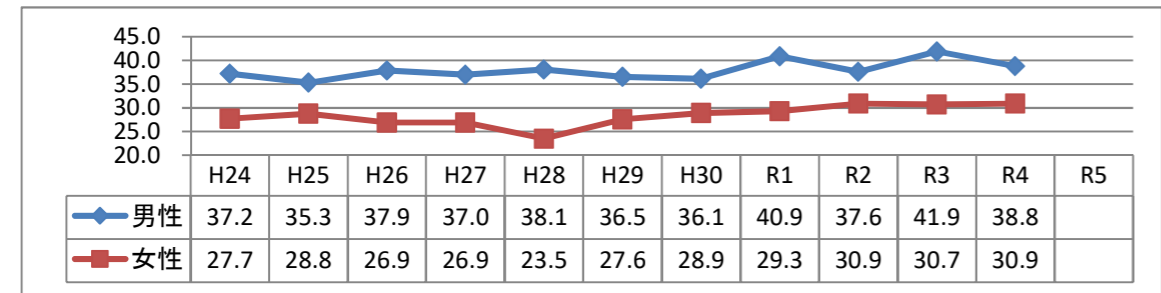


① 施策のありたい姿

ウォーキングイベントなどをきっかけに、体を動かすことを楽しみながら生活の中に取り入れている人が増えている。

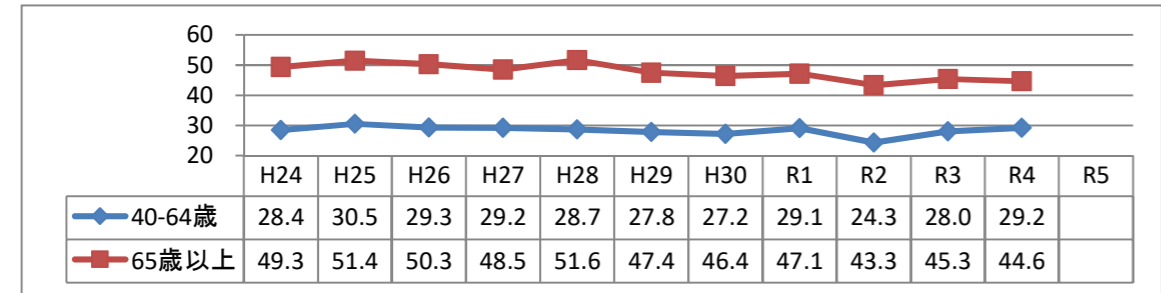
② 指標の推移

指標9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合



○ 男性は前年度から3.1ポイント減少したが、年度毎に変動がみられている。女性は前年度から0.2ポイント改善し、基準値から3.0ポイント改善を維持している。年齢別では、16～19歳と前期高齢者で減少しており、16～19歳では2年連続で減少している。20代では改善し過去最高値となった。

指標10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合



△ 昨年度から、ほぼ横ばいだが、40～64歳は2年連続して増加している。基準値と比較すると65歳以上は減少している。

④ 推進会議のコメント

- ・運動に取り組む20代の数値が改善している結果だが、公園を歩く人やテニスコートの利用者は年配の人が目立ち、若者が利用しているイメージはない。
- ・企業では若者がトレーニングジムで運動をしている話がある。チームを作って歩数を競うイベントも行っている。
- ・市の健康づくりに賛同する団体は市の運動施設を減免で利用できるよい。
- ・高齢者とうかい健康チャレンジの対象となる教室を増やしてはどうか。

⑤ 施策の評価

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和2年度から継続した改善が見受けられる。20代等の若者世代はスポーツやトレーニングジム等を通じて体を動かす機会を作っていることが窺える。今後は高齢者や家族層に対し、子どもを巻き込んだ健康づくりの取り組みを推進し、ウォーキングなど身近な手段活用した健康づくりのためのきっかけを提供していく。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報提供の充実
項目・プランの方向性	市や各種団体が実施しているウォーキングや、ニュースポーツなどのイベント情報をとりまとめ、年代やライフスタイルに合わせた情報提供を進めます。
主な事業	市や各種団体が実施しているウォーキングイベントの情報をとりまとめ、「みんなでウォーキング」としてラリー形式のイベントにして市民に発信。(7団体11イベント)
課題・次年度の方向性	参加者は高齢者が多く、リピーターも多いため、コースや距離を見直していく。子どものいる家族層にとっても運動ができる機会となるよう開催日時や、周知に工夫を図る。

項目・プランの方向性	イ) 運動応援メニュー提供事業
項目・プランの方向性	運動に関心をもった人が具体的に行動できるように、対面による運動・食生活応援メニューの提供の場を増やします。
主な事業	しあわせ村トレーニング室や市民体育館、事業所等への健康づくりに関する出前講座等で運動・食生活応援メニューを提供。(1,095件)
課題・次年度の方向性	市民体育館での応援メニュー提供件数が減少しているため、応援メニュー判定事業についてのチラシを作成し、配布した。広くチラシを配布するとともに、特定健診結果報告書での情報提供を継続していく。より働く世代に活用してもらえるよう引き続き市内事業所、全国健康保険協会愛知支部と連携・協力していく。

項目・プランの方向性	ウ) ウォーキングの推進
項目・プランの方向性	歩きたくなるウォーキングマップや魅力あるイベントをととして、ウォーキングに取り組む人を増やします。
主な事業	シニア健康スポーツフェスティバルのウォーキング東海を始めとした東海市健康づくりリーダー連絡協議会・東海ライオンズクラブ等によるウォーキングイベントを実施(7団体11イベントに1,114人が参加)し、5イベント参加した方にへいしゅうくんのオリジナルピンバッジをプレゼント。
課題・次年度の方向性	高齢者へのアプローチとして、「高齢者とうかい健康チャレンジ」事業を通じ、県のスマートフォンアプリ「あいち健康プラス」を活用して、手軽な運動であるウォーキングに取り組む人を増やす。子どものいる家族層の参加を図るため、中学生以下に特典を付ける。



4-2
運動・身体活動

②運動に取り組みやすい場を充実する

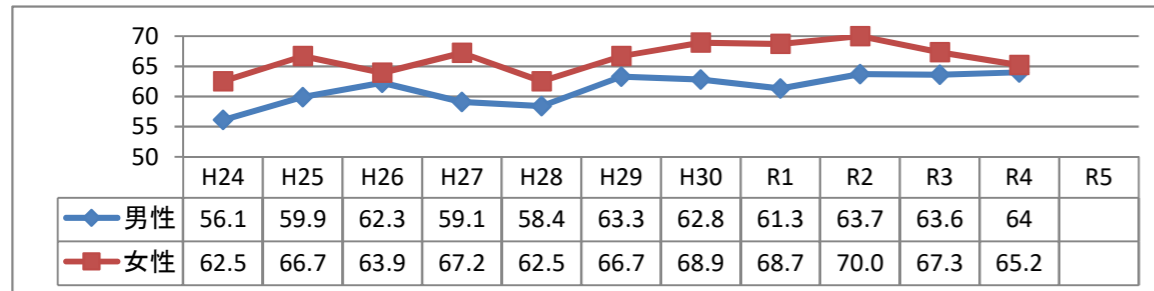


① 施策のありたい姿

運動習慣がない人も「運動をしてみよう」と思え、運動習慣が自然に身に付く環境が整っている。

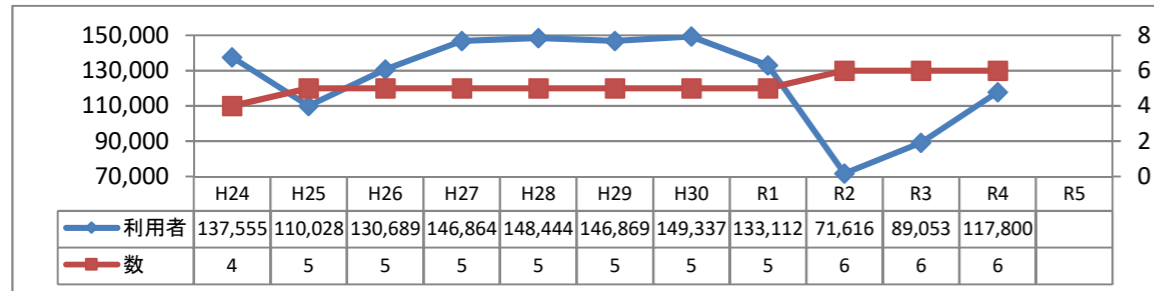
② 指標の推移

指標11:市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合



○ 男性は基準値から7.9ポイント改善しており、順調に推移している。女性は2年連続減少。年齢別では、前期高齢者で減少しており、10代、20代、壮年期で増加傾向。職業別では、学生が75.3%と最も高い結果だった。これは市内商業高校と連携して健康づくりの啓発等に取り組んだことによるものと考えられる。

指標12:運動ステーションの数と利用者数



△ 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大きく落ち込んだ令和2年度及び3年度からは改善したが、基準値までは回復していない状況である。利用可能者数の緩和等の周知を行い、利用者数の増加を図っていく。

④ 推進会議のコメント

・主な取り組みが、高齢者に特化した取り組みばかりであるため、子どもや若者にアプローチするために、自転車で乗り入れができる公園やスケートボードなどができる公園があるとよい。
・取り組みや周知のターゲットは誰なのかを再度確認し、世代を絞ってPRしたり、SNSを積極的に利用した情報発信もすべき。

⑤ 施策の評価

市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合は、昨年度横ばいであるが、計画当初から順調に推移している。運動ステーションの利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響から持ち直してきている。運動ステーション以外の民間運動施設も充実してきており、さらなる運動に取り組みやすい環境づくりを推進する。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) トレーニング場所の充実・整備事業
運動習慣のない人が入りやすく使いやすいトレーニング室の充実と、増加する利用者に合わせた場所の拡充を進めます。	
主な事業	しあわせ村トレーニング室に健康運動指導士を配置して運動に関するアドバイス、高齢者健康づくり事業(コパンスポーツクラブ東海の利用料金の一部補助)を実施
課題・次年度の方向性	しあわせ村トレーニング室では医療機関と連携してリスク保有者やこれまで運動習慣がなかった方でも安心して運動できる環境づくりを推進する。また、コパンスポーツクラブ東海を利用する高齢者に対して利用料金の一部を補助する。

項目・プランの方向性	イ) 歩道やウォーキングコース(ペース体感ゾーン)の整備・活用事業
足首や膝に負担が少なく、安全で歩きやすい歩道や、ウォーキングコースの整備と利用促進を図ります。	
主な事業	市内公園施設や加木屋緑地を活用したウォーキングイベントの実施
課題・次年度の方向性	緑の中で、景色を楽しみながらクロスカントリーコースで健康づくりやトレーニングができる加木屋緑地や、市内公園施設を活用し、個人の健康状態や体力に合ったウォーキングのペースが確認できるウォーキングペース体感ゾーンの利用を推進する。

項目・プランの方向性	ウ) 仲間と取り組む運動場所の充実・整備事業
高齢者が仲間とともに継続的に体を動かし活動できるよう、グラウンド・ゴルフ場などを整備します。	
主な事業	グラウンドゴルフ場の利用促進(荒尾グラウンドゴルフ場 R4年度利用者数10,299人)
課題・次年度の方向性	荒尾グラウンドゴルフ場の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響のあった前年度に比べ約470人増加した。引き続き、施設の利用促進を図る。

項目・プランの方向性	エ) 各種運動教室の連携事業
公民館など身近なところで参加できる運動教室を充実します。運動の強さをわかりやすく示すなど、自分に合った運動教室が選べる仕組みを作ります。	
主な事業	公民館・市民館でゴムバンド体操、ストレッチ、ヨガ等の運動教室を実施。高齢者が運動をできる場の情報提供として、市民館公民館、健康交流の家等で実施しているゴムバンド体操、おもいを使った百歳体操の一覧表を作成。
課題・次年度の方向性	各機関が実施している運動教室について、個人の希望に合った運動(教室型、個別型等)の情報提供方法について関係課等と検討する。

4-2
運動・身体活動

③グループ(企業・団体)活動を推進する



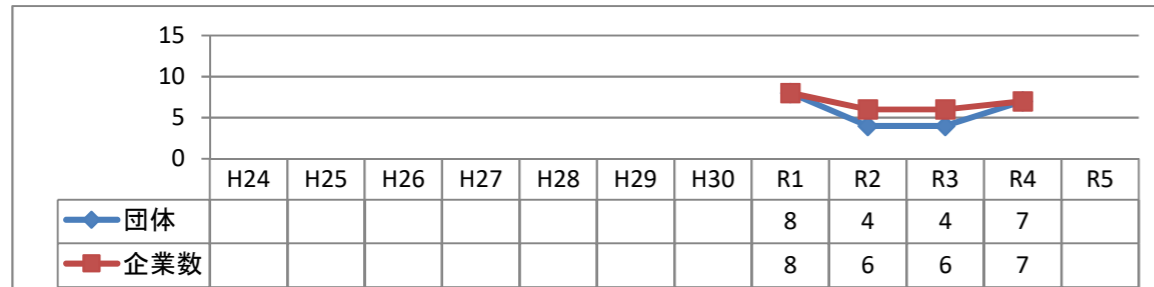
① 施策のありたい姿

企業や市民団体の特性を生かした健康づくりに関する取り組みが活発に行われている



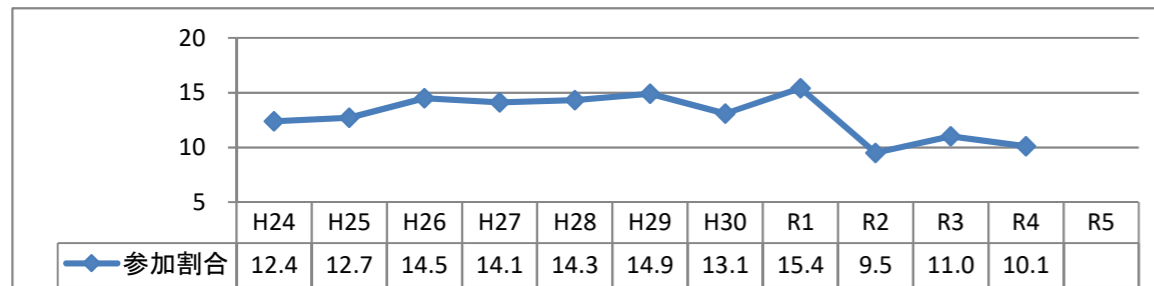
② 指標の推移

指標13:市と連携して健康づくりに取り組む市民団体・企業数



みんなでウォーキングは7団体と連携して実施した。また、7企業と連携して従業員の健康づくりに取り組む出前講座やいきいき元気キャンペーン等を実施した。引き続き、市民団体・企業と連携して高齢者だけでなく働き盛り世代に対する健康づくりのきっかけづくりや継続した取り組みを支援する。

指標14:1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことがある人の割合



前年度との比較では0.9ポイント減少した。年齢別では、16～19歳、30代、40代で増加がみられるが、その他の世代では減少した。職業別では、主婦層に大きく減少がみられた。

④ 推進会議のコメント

- ・ウォーキングの実施団体は、「東海市みんなでウォーキング」で取りまとめ、活動の支援を継続する。
- ・働き世代に対する健康づくりでは、市と企業が引き続き連携して取り組む。
- ・高齢者の地域活動では、担い手の高齢化問題もあるため、地縁に頼らなくても活動できる事業も実施する。



⑤ 施策の評価

ウォーキングイベントや健康教室に参加したことがある人の割合は、前年度悪化し、特に主婦層で大きく減少がみられた。企業と連携した健康づくり支援事業を通じてアプリを活用した健康づくりや、若い時期からの生活習慣病の予防、高齢者の継続した日常生活における介護予防活動を推進していく。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 市民団体との連携事業
健康づくりに取り組む市民団体との連携を進め、地域での健康づくり活動を活性化します。	
主な事業	東海市健康づくりリーダー連絡協議会・東海ライオンズクラブ等によるウォーキングイベント(7団体11イベントに1,114人が参加、103人にへいしゅうくんオリジナルピンバッチをプレゼント)
課題・次年度の方向性	健康づくりに取り組む市民団体におけるメンバーの高齢化が進むとともに、新たな担い手も少ない状況であることから、いきいき元気フェスティバルやみんなでウォーキングを通じて、健康づくりに取り組む人を増やし市民団体への参加を促す。

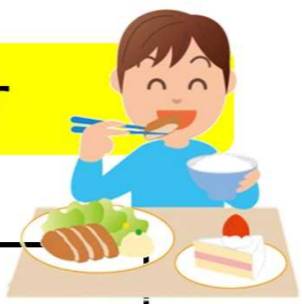
項目・プランの方向性	イ) 企業の活動支援事業
事業主や担当者の健康への関心を高めるための取り組みを進めます。また、従業員の健康づくりを進める企業の活動を支援します。	
主な事業	いきいき元気キャンペーン(5社4,095人参加)、出張判定・健康教育(7社)
課題・次年度の方向性	健康づくりや健康診断を受ける人の割合は年代が下がるにつれて低い傾向にあるため、協会けんぽや商工会議所と連携を図り中小企業の健康経営の取組を支援し、若い時期からの生活習慣病の予防を推進していく。

項目・プランの方向性	ウ) サークル活動応援事業
おもりの体操やゴムバンド体操など、健康づくりを自主的に取り組む市民のサークル活動を支援します。	
主な事業	地域で活動している団体に対し、体力チェックや健康教育、健康相談等を実施。脳トレいきいき百歳応援事業
課題・次年度の方向性	地区活動の担い手の高齢化が進み解散する団体も少なくないことから、壮年期から地域との関わりを持てるような支援策について関係団体等と検討していく。また、地縁に頼らなくても活動できる事業の実施。



4-3 食生活

①適量やバランスを意識する機会を増やす

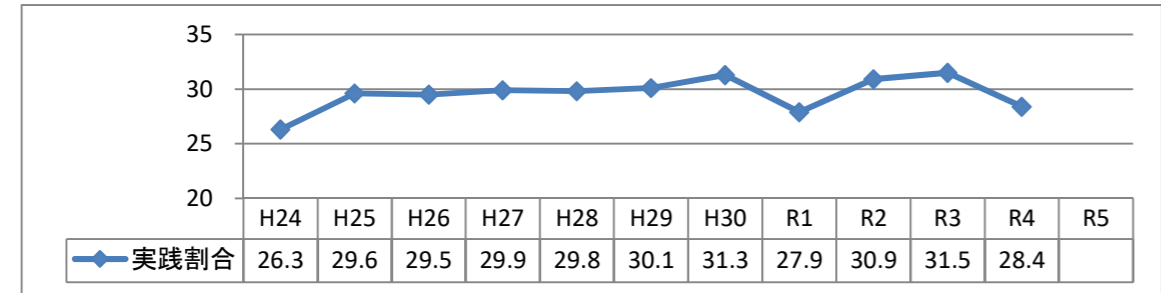


① 施策のありたい姿

身近に食事量やバランスを意識できる機会があり、自分に合った食生活を送っている人が増えている。

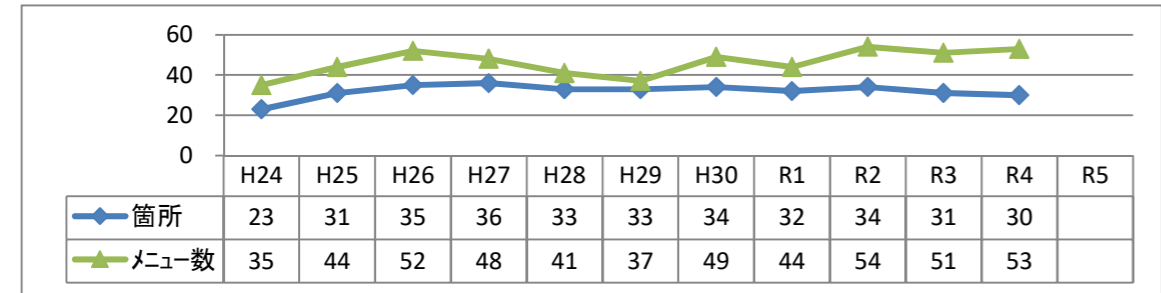
② 指標の推移

指標15: 健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合



○ 前年度との比較では3.1ポイント悪化し、男女とも悪化した。年齢別では、16～19歳では17.9ポイント、30～39歳で6.9ポイント改善し、若い世代で改善傾向であった。しかし65歳以上はポイント数が悪化したことから、コロナ禍での活動自粛等の影響があったと考えられる。

指標16: 食生活ステーションの数および提供メニュー数



○ 食生活ステーションの数は、廃業及び経営者都合により2店舗減少したが、新規店舗の認定を行い1店舗増加したため、差引き1箇所の減少となった。新型コロナウイルスの影響で低調となった外出需要を呼び戻し、認定店舗の拡大を図る。

④ 推進会議のコメント

・コロナ禍の外出自粛の影響や、食品の物価高騰の影響が家庭での食事の量やバランスに影響がでたのではないかと。
 ・夫婦や家族が同時に、同じ意識を持って取り組むことができると効果的である。事業と一緒に参加を促すようなPRすることが必要。

⑤ 施策の評価

食生活の改善に取り組んでいる人の割合は、昨年度から改善し順調に推移しているが、割合が低調な30歳以下の世代に対する取り組みが課題である。改善策として、オンラインで実施する両親学級や、クックパッドでのレシピ掲載、トマトde健康フェスティバルに参加した店舗等へ提供メニューの定番化等を働きかけ、野菜摂取に関する取り組みを推進していく。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 食の正しい知識・情報の啓発(知育) 食生活応援メニューの提供やいきいき元気メニューのレシピを活用し、食の正しい知識や適量・バランスなどの情報提供を進めます。
主な事業	新型コロナウイルス感染予防のため、公民館等での調理実習は感染対策を徹底し定員より人数を減らすなどして再開した。離乳食講習会はオンラインと来所併用で行い参加者が選択できるように環境を整備した。その他クックパッド、料理動画や知多メディアス、広報を活用して食の情報発信した。
課題・次年度の方向性	料理教室等を再開する。可能な教室は対面や料理を教材とした体験ができる事業を実施するとともに、オンラインを併用しながら食の情報発信を行っていく。

項目・プランの方向性	イ) いきいき元気メニューの開発・普及(徳育) 東海商工会議所や市内の飲食店、また大学や企業などとの連携を進め、いきいき元気メニューの開発・普及を進めます。
主な事業	食生活ステーションとの連携(30店舗)
課題・次年度の方向性	食生活ステーションの数及び提供メニュー数は横ばい傾向である。食生活ステーションの増加に努め、健康応援ステーションの認知度向上を図り啓発を進めていく。

項目・プランの方向性	ウ) トマトを使った健康づくりの推進(徳育) トマトの苗の配布やトマトの日(毎月10日)の取り組みを進め、地域や小学校などでの食育を進めます。また、トマトを使った健康メニューの開発や食の活動拠点の整備を進めます。
主な事業	トマト苗の配布は再開できたが、収穫祭の料理教室は2件だった。トマトde健康フェスティバルは5,494食(R3 5,985食)を販売。マックスバリュー東海店の参加もあり、持ち帰り弁当でもトマトメニューを提供した。トマト給食コンテスト入賞作品をとまと記念館で提供した。また、小学校でのトマト出前授業を実施した。
課題・次年度の方向性	マックスバリュー東海店にて、今年度もトマトde健康フェスティバルのメニューとして、引き続き持ち帰り弁当をメニューとして提供していく。小学校でのトマトや野菜に関する出前授業や、給食レシピコンテストを実施する。

項目・プランの方向性	エ) 食生活改善推進員の人材育成・活動支援(徳育) 地域において、食の正しい知識の普及や取り組みを進める食生活改善推進員の育成と活動を支援します。
主な事業	新型コロナウイルス感染予防のため、公民館・市民館等の料理教室は定員縮小しながら実施した。ヘルスメイト養成講座は定員を縮小し実施。12名参加した。感染予防対策を行いながら食改の生涯教育、活動を実施した。
課題・次年度の方向性	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、昨年度は養成講座の定員を縮小し、実施したが、今年度は定員を20名として実施予定。他の協議会との交流会等を企画するなど、少しずつもとの活動にシフトしていく。

4-4
ふれあい

① 交流の場・活動の場を充実する

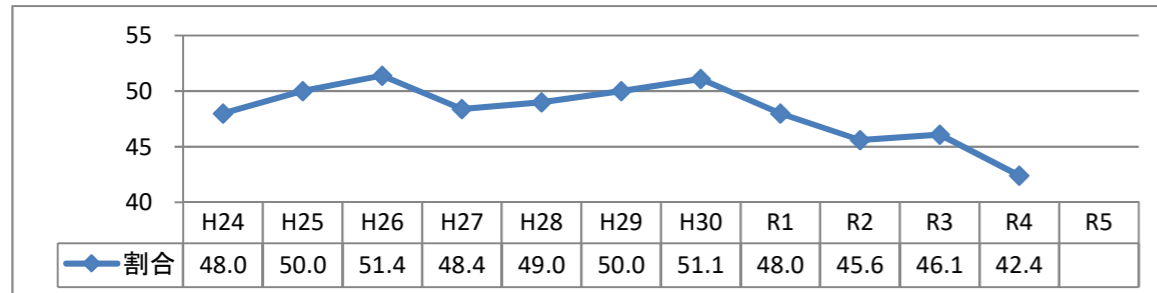


① 施策のありたい姿

幼少期から高齢者までのすべての人が人とのつながりの場を持ち、人生を楽しみながら生涯現役で過ごしている。

② 指標の推移

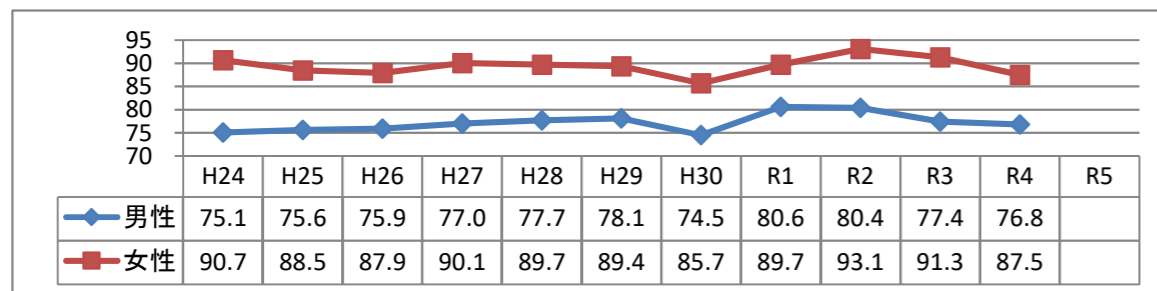
指標17: 地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合



×

前年度比3.7ポイント減少している。年齢別では全体的に減少しているが、30代、40代の子育て世代では増加している。

指標18: 困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合



△

前年度比、男性0.6ポイント、女性3.8ポイントと男性・女性共に相談できる人が身近にいる人の割合が低下した。男女とも2年連続低下した。引き続き相談につながるような交流の場づくり等の工夫が必要である。

④ 推進会議のコメント

- ・コロナ禍では、人と交流する怖さを各個人が感じ、繋がりにくくても繋がりを持てない状況が続く、精神的な影響は今になっても出ているのではないかと。
- ・現在は、65歳を過ぎても仕事をしている人が多く、地域のデビューが70歳を超えている。そのため、町内会等の役員の担い手がなかったり、高齢化している。
- ・地域活動のサポーターは、養成講座を受けても、環境やタイミングが揃わないと活動することは難しい。

⑤ 施策の評価

地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合は前年度比-3.7ポイント減少している。コロナ禍の影響も残っていることが考えられるが、引き続き人とのつながりを持てる地域づくりを継続する必要がある。
困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合は前年度比、男性-0.6ポイント、女性-3.8ポイントと男女とも減少した。引き続き相談につながるような交流の場づくり等の工夫が必要である。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報の一元化と情報発信
主な事業	活動情報の集約と情報発信を行い、自分にあつた地域の交流や活動の場に参加しやすい仕組みづくりに取り組みます。
課題・次年度の方向性	介護予防啓発研修会を実施(74名参加)。また、生活支援体制整備事業の第2層協議体でインフォーマルな活動情報も含めて、第2層に設置された生活支援コーディネーターを中心に協議体メンバー同士で情報を共有・集約した。また、随時面談等による個別相談にて自分にあつた地域の交流や活動の場を提案。
課題・次年度の方向性	引き続き、インフォーマルな活動情報も含めて、第2層に設置された生活支援コーディネーターを中心に協議体メンバー同士で情報を共有・集約し、交流・活動できる場の情報発信を工夫していく。

項目・プランの方向性	イ) 担い手の育成・交流促進
主な事業	専門家による支援を進め、地域で生活する退職者を活動の担い手として育成します。団体同士の交流の機会をつくり、活動の活性化を図ります。
課題・次年度の方向性	ボランティア養成講座では、百歳体操サポーターが12名養成された。修了者が地域活動の担っていくには、まだ人材が少なく、養成講座の情報発信や、担い手への継続的なサポートは課題である。

項目・プランの方向性	ウ) 交流・活動の場の充実
主な事業	地域の健康課題や特性を分析し、運動や会食など地域にあつたメニュー開発を進め、交流や活動の場を充実します。
課題・次年度の方向性	いきいき百歳体操(33団体)R4新規立ち上げなし 健康教育(64回、1,212人) 地域介護予防活動支援事業(専門職の派遣100回、1,199人)
課題・次年度の方向性	いきいき百歳体操事業では、参加者の高齢化で人数の減少から継続が難しい団体もあり、活動の継続的サポートが必要である。通いの場の活性化と低栄養予防として健康支援配食サービス事業、世話役を地縁に頼らず身近で参加しやすい運動のできる場として高齢者元気アップ教室を新規事業として予定している。



4-5
次世代の健康

①規則正しい生活習慣を身につける

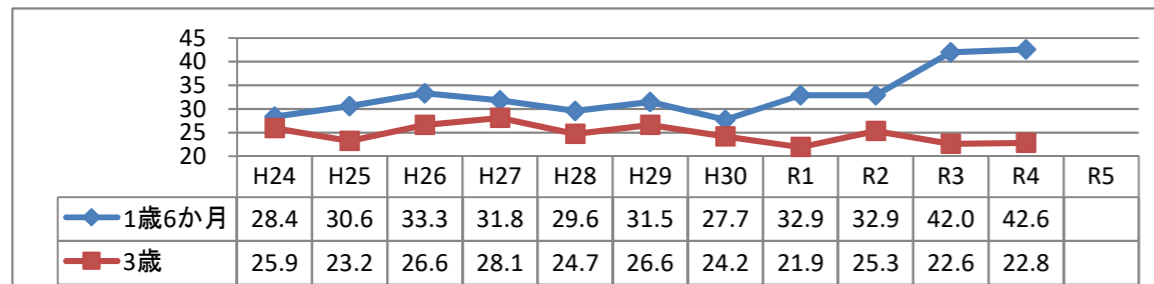


① 施策のありたい姿

「運動」、「食事」、「睡眠」といった生活サイクルが整っている。

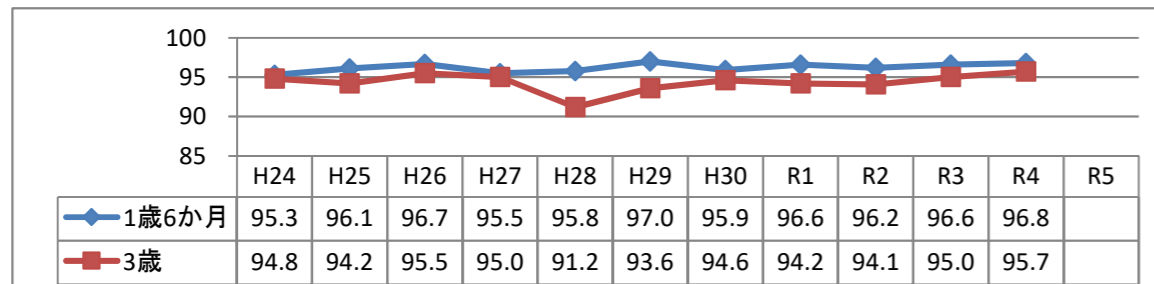
② 指標の推移

指標19:午後9時前に就寝する幼児の割合



1歳6か月児は前年より0.6ポイント改善したが、3歳児は前年より0.2ポイント悪化し、全体としては横ばいである。年齢が上がると就寝時間が遅くなる傾向があるため、3歳児健診等の機会に啓発が必要である。

指標20:朝食を食べている幼児の割合



1歳6か月児は前年比0.2ポイント、3歳児は0.7ポイント改善しており、順調に推移している。朝食を毎日食べていない幼児は、就寝時間も遅い傾向があるため、生活全体の改善にむけて個別指導を充実させる必要がある。

④ 推進会議のコメント

・現在、母親同士、父親同士が触れ合う機会が少ない状況。他の家庭がどのように子育てをしているか知らない。インターネットでの情報を頼りにしている。ふれあいと情報収集できる場づくりが今後必要。
・インターネット等で多くの情報が入ってくる中、取捨選択は若い人ほど難しい。若い親は、子どものために必死になり情報に飛びつく傾向にあるので、専門家が情報のコントロールをすることも必要か。

⑤ 施策の評価

各種事業において情報提供や保健指導を実施してきており、指標は改善傾向にあり、一定の成果が出ている。しかし、年齢が上昇すると就寝時間が遅くなる傾向が認められており、今後も個別性を踏まえて保健指導を進めていく必要がある。

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報提供と相談体制の充実
主な事業	子育ての悩みや不安が解消でき、保護者の具体的な行動の支援につながる情報提供や相談体制の充実を図ります。
課題・次年度の方向性	引き続き、妊娠期から生活サイクルの重要性について啓発を行うとともに、健診、相談場面では多様なライフスタイルに配慮しながら、個別の状況に合わせ、具体的な周知を図る。

項目・プランの方向性	イ) 実践学習の場の整備
主な事業	子どもに関する教室等の事業において、参加者同士が学び会える体験型の取り組みを進めます。
課題・次年度の方向性	感染拡大防止の観点から実施していたオンラインの活用やベビーサロンなどの触れ合いを通じた参加しやすい学習機会の提供に努める。

項目・プランの方向性	ウ) データの共有と連携体制の整備
主な事業	幼稚園、保育園、小中学校などの関係機関と子どもの健康に関するデータの共有化を進めます。また、子どもの成長に合わせた支援ができるよう、関係機関の連携体制づくりを進めます。
課題・次年度の方向性	利用者支援事業連携調整会議、発達支援連携会議、自立支援協議会こども部会(医療的ケア児に関することを含む)、健診情報一元化に関する取組
課題・次年度の方向性	PHR(乳幼児期から小中学校の健康診断の結果の連携記録)アプリを用いた本人への情報還元をすすめるとともに、国が進めるマイナンバーを用いた健診データの一元活用について取り組む。



健康寿命の延伸 ～すべての人に健康を～

国が示しているキーワード

疾病予防・重症化予防

がん 循環器病
糖尿病 COPD

疾病予防・重症化予防

健康の大切さ

健康診査 飲酒 口腔衛生
がん検診 喫煙 (歯周病等)

食生活

適正体重 肥満・やせ傾向児
バランスの良い食事
野菜・果物・食塩摂取量

活動・休養

休息感・睡眠時間 過労働時間
こころの健康

子ども

子どもの運動・スポーツ
肥満・やせ傾向児

高齢者

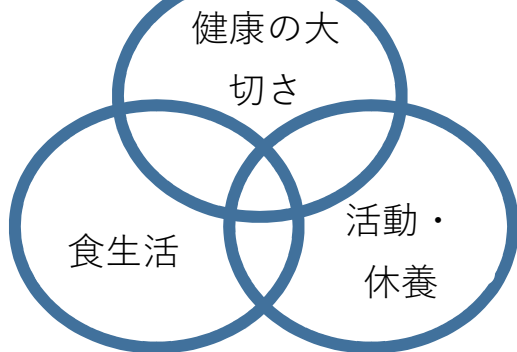
低栄養傾向高齢者 ロコモ
高齢者の社会活動

女性

若年女性やせ 女性の飲酒
骨粗鬆症 妊婦の喫煙

環境・ソーシャルキャピタル

共食 食環境イニシアチブ
メンタルヘルスに取り組む職場
まちなかウォークアブル
望まない受動喫煙
スマートライフプロジェクト
健康経営 産業保健サービス



ライフコース

環境・ソーシャルキャピタル

※ソーシャルキャピタル
「人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴」

東海市の目標案

※疾病予防は一つのアウトカムのため、目標は設定せず、評価指標として考える

健康の大切さ

自分の健康状態を知り、自分に合った健康行動ができている。

食生活

適量やバランスの取れた食事をおいしく食べられる

活動・休養

楽しみながら体を動かし、気持ちの良い休養がとれる。

ライフコース

将来の健康を守る生活行動ができている。

※第2次健康増進計画の「次世代の健康」だけでなく、性差や年齢層にも着目した「ライフコース」としたものの

環境・ソーシャルキャピタル

自然に健康になれる環境づくりに取り組んでいる。

※第2次東海市健康増進計画では、各目標の中で取り組んでいた環境づくりを「ふれあい」と包含し「環境・ソーシャルキャピタル」としたものの

※参考
第2次健康増進計画の目標

健康の大切さ

自分の健康状態を知り、自分の体のメンテナンスができている。

食生活

家族や仲間と楽しみながら自分に合った食生活を送っている。

運動・身体活動

目標を持ち楽しみながら、体を動かすことが生活のリズムになっている。

次世代の健康

規則正しい生活が身につき、健やかに育っている。

ふれあい

人と人がふれあい、生きがいを感じながら暮らしている。